



岡 絵理子

専門とする分野：

集合住宅 市街地建築物
住宅地 住環境

所属：

関西大学 環境都市工学部 建築学科

経歴：

京都府立大学 生活科学部 卒業
大阪大学大学院 工学研究科
環境工学専攻 博士前期課程 修了
同 後期課程 修了 博士（工学）

団地再編のイメージ

・色合いのない空間

団地とは、一つの広い敷地の中に、複数の集合住宅が建てられている状態の場所である。1970年代、1980年代の団地の多くが、敷地と周辺の町や道との関係を意識せず、むしろ無視して住棟配置がされていると感じる。多くの団地が、田んぼの中や埋め立て地等、連坦した市街地から離れた所につくられたためでもあろう。敷地はどこまでも均質な空間で、窓やバルコニーを南面に配置することのみを考えて、住棟が配置されている。住棟同士の関係、住戸の出入り口との関係、例えば人がドアから出てきてまずどこに目をやるか、窓辺に立つ人がどこを眺めるかというような、活動する人々の存在を考慮せず、住戸の平等性を重視し、住棟配置が規則的にされているため、空間に色合いがない。



・既成市街地の中の団地

日本の団地でも、昭和初期にまちなかの再開発事業として建設された団地は、町との関係を考え、むしろいままでの市街地をよりよくすることを目的に団地が建設されている。戦後、都心市街地復興の一環として建設された数々の団地も、既成市街地にうまくおさまるように、団地がつけられる街区の特性を読み取って、住棟を街路に沿って配置したり、囲み型に配置するなど、周囲との連続性を考えた団地をいくつか見いだすことができる。地形に特徴がある場所では、住棟の配置しか考えることを許されなかったプランナーが、地形を読みながら慎重に住棟を配置した団地もしばしば見いだすことができる。このような団地の空間には、色がある。



・空間の色

空間の色とは、裏と表、外と内、明るいところと暗いところといったもので、人の暮らしにハレとケがあるように、都市の空間にもそのような様々な色がある。この様々な色が町を魅力的にする。色があると、人はその色に応じた場所とのつきあい方をする。人が集まりやすいところや、人が寄り付きにくいところ、一人になれるところなど、人々の行動を生み出す仕掛けとなる。優れた空間計画とは、このような空間の色をつくり出すことである。

空間の色の無い場所では、住み手が色づけを行う。千里ニュータウンの団地で育った子供たちは、団地の中でたくさんの大人の知らないお話をつくりだした。「蛇の階段は、おるときと上るときで段数がちがう」、「この抜け道を夜歩くと、女の人がついてくる」などの場所の伝説をつくりだす。こうして、均質な団地の空間に、近付き難いところや、怖いところをつくりだす。お話ができて初めて、場所は人の心に残る空間となる。色のある空間に住みたい、愛着のある場所に住みたい、それは人間の本能である。

・空間に色を付ける

さて、団地再編である。連坦した市街地から離れた場所に計画された団地も、年月とともに周囲を市街地に埋め尽くされて、現在では色づいた市街地の中に浮き上がる、色合いの無い島となっている。その後、老朽化した住棟の立て替えが行われたが、住棟を立て替えたのみで、団地に周りの色づいた空間を呼び込むことに配慮しなかった。

私の考える団地再編は、団地にその土地の色を浮かび上がらせる、周りの市街地の色を引き込む、周りの市街地も色付けるような発進力のある色付けをする、そのような空間への操作である。

団地再編に関する知見

- ・昭和初期、大大阪の時代、関一が片岡安とともに、不良住宅地区改良事業として行ったRC集合住宅団地の建設は、街区の内側に形成された不良住宅地区を一掃し、街区を串指す街路を入れることにより、街路を挟んだ沿道空間と、その内側に形成される住空間を作り上げた。街路を通すことにより、空間に色を付けている。
- ・昭和初期のRC集合住宅団地では、住棟の中も均質にせず、様々な住宅タイプを挿入している。単身者向けの水回り（台所、洗濯場など）を共同にした部屋貸しを住棟の中に混ぜて作っている。これも、空間を色付ける一つの方法である。
- ・戦後の既成市街地内における団地開発は、道路拡幅等の都市計画の事業に伴って建設された。そのため、その計画はまちづくりの側面を持っており、周辺市街地への配慮があるため、自然と団地内空間にも、色合いとつくり出していた。
- ・海外での色合いの無い団地の代表例である社会主義住宅団地では、時間の経過とともに人間の本能に従って人々が様々に空間の色づけを行っている。そこに、魅力的な空間を見いだすことはしばしばある。
- ・これらの知見の多くは、2001年3月にまとめた博士論文「市街地における住居系建築物の形態および利用の特性に関する研究」による。
- ・その他の参考文献としては、
「屋外活動から見た中国的生活様式と住宅地の研究」(平成16年度日本造園学会全国大会研究発表論文集(22))岡 絵理子、彭建波、澤木 昌典、鳴海 邦碩 ランドスケープ研究:日本造園学会誌 67(5), 759-762, 2004-03-31、
「社会主義都市の民主化による土地と住宅の概念の変化に関する研究:モンゴルの首都、ウランバートルを事例に」岡 絵理子、鳴海 邦碩、ウィトメントメンジャルガル、都市計画・別冊、都市計画論文集(37), 637-642, 2002-10-15、など。

2011年1月以降の業績（発表論文・著書など）

■論文

- ・「香港 特異な歴史が育んだ住宅地 -- 九龍塘 (特集 アジア住宅地事情)」家とまちなみ、住宅生産振興財団,30(1),岡絵理子、pp15-17,2011年3月
- ・「原風景ともどる場所としての集落のあり方に関する研究:丹波市青垣町神楽地区菅原集落における茅葺古民家と所有者の現状」日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系(52)・岡絵理子、福本優・pp.333~336、2012年6月
- ・「小浜島集落の敷地と住まいの変容について:八重山諸島の風土的集落の変容に関する研究」日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系(52)・岡絵理子・福本優・pp.337~340、2012年6月
- ・「欧州団地再生時勢における空間変化と実施体制:イギリス・ドイツ・オランダの再生事例の場合」日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系(52)・倉知徹・江川直樹・鳴海邦碩・角橋徹也・pp.465~468、2012年6月
- ・「都市型短期滞在型ゲストハウスの地域まちづくりへの可能性に関する研究:関西4市のゲストハウスを事例に」日本都市計画学会関西支部研究発表会講演概要集10・澤田沙希・pp.1~4、2012年7月
- ・「臨遺跡集落・エジプト サッカラ村の市街地の構造に関する研究」共著 23年5月 日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系(51)・古谷彰基・小出朗・pp.325~328、2011年5月
- ・「大阪集合住宅団地 黎明期」、「ハノイでカワイイをさがす 団地の竹下通り」、「研究担当者の再編イメージ」関西大学地域再生センター、Re-DANCHI leaflet NO.13、59、63、2012年5月

『関西大学 戦略的研究基盤 団地再編 プロフィールシート』

執筆:岡 絵理子

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅“団地”の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究(平成23年度~平成27年度)」によって作成された。

関西大学

先端科学技術推進機構 地域再生センター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
先端科学技術推進機4F 団地再編プロジェクト室

Tel : 06-6368-1111 (内線:6720)

URL : <http://ksdp.jimdo.com/>